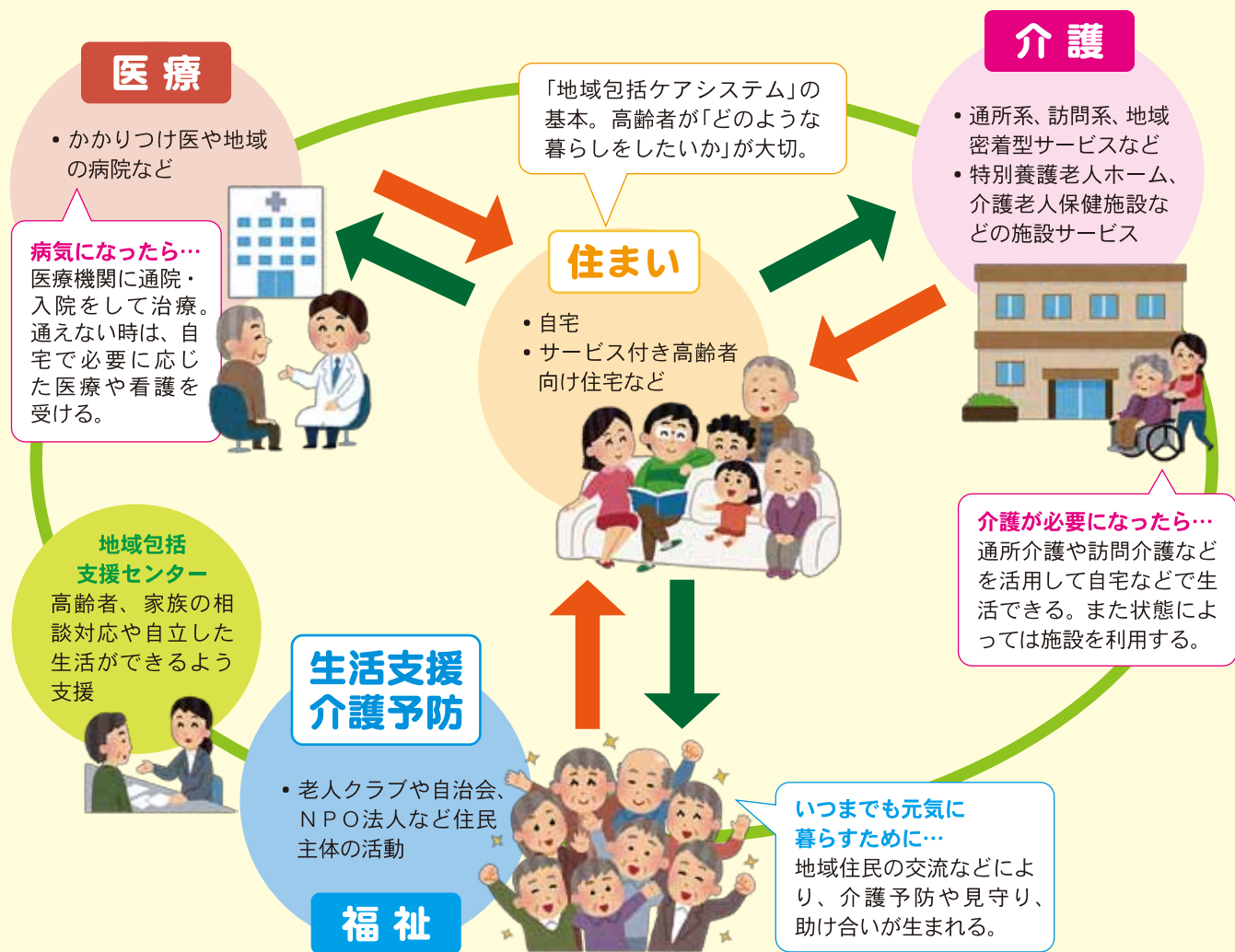


地域包括ケアシステムのイメージ



住みなれた地域で自分らしく生きる

日本人の平均寿命が伸び続け、団塊の世代も高齢者世代に突入した日本は

これまで経験したことの無い超高齢化社会を迎えています

そして、単身や夫婦のみの高齢者世帯や認知症高齢者の増加が見込まれています

そんな中、「自宅で介護や療養をしたい」と希望する人たちが増えてきています

国は、できる限り住みなれた地域で、自分らしい生活を送ることができる社会の実現に向けて

「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています

では「地域包括ケアシステム」とは、一体どういう仕組みで

私たちにできることは何なのか、取材しました



金山公民館の「てげて広場」。休憩時間は会話がはずむ

「地域包括ケアシステム」とは、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」が一体的に提供される仕組みのことです。

「地域包括ケアシステム」が実際にどういったものなのか、県社会福祉協議会の生活支援体制推進コーディネーターである神蘭隆志さんにお話を伺いました。

「介護保険制度が平成12年に始まり17年が経つわけですが、その間に介護サービスなどは充実してきました。しかし、専門的なサービスが生じるためには住まいとか生活支援といった部分が充実していないと、うまくいかないのではないかと言われるようになってきました。『隣近所の方の見守りや声掛け』というような、普段のお付き合いの延長線上にあるようなことも見方によつては生活支援になりますよね。自分の事は自分で『互助』や介護保険制度では補えない地域の中での支え合いや助け合いといった『互助』というものに期

待がされていて、地域包括ケアシステムの重要な部分なんです」。

地域の特性を生かした取り組み

本市では高齢者の孤立防止や介護予防を目的に「てげて広場」事業を平成27年度から始めています。県内各地においても地域の実情に沿ったさまざまな取り組みが行われています。

「県内では移動販売車が来るまでの時間を利用して、サロンを開いているところもあります。この場合は買い物のついでにたまたま集まって立ち話をしているだけなんですけど、結果的には生活支援につながっていますよね。他のサロンが月に1回というのが多い中、この地域の住民の方にはわざわざ出てきてというのが嫌だったみたいで、日常の流れを壊さない形で週に1度の居場所づくりができています。また違うところでは、家に引きこもっている高齢者の方が多いからちよつと出かける場所を設けようと、公民館などを活用してふれあいサロンのような集まりの場を開いて、体操をしたりお茶を飲んだりしています。既存のものをうまく活用してもいいです



県生活支援体制推進コーディネーター 神蘭隆志さん

し、何もない中に新しいものを作り出してもいい。方法はさまざまだと思います。地域の特性や実情を生かしながら、うまく糸口を作っていければいいのかなと思います」と神蘭さんは話します。

住みなれた地域で自分らしく暮らすには

「介護サービスなどの支援だけではどうしても限界があります。地域包括ケアで大事なのは『垣根を超えて連携すること』です。その地域で暮らす人にはどういった事が必要なのか、まずは住民が地域をよく見つけ、話し合うところから始まります。住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるというのは専門的なサービスを利用するだけではなくて、地域とのつながりの中で生活をしていくということだと思っています。『つながり』を大事にして、みんなで共有し、お互いを支え合っていければいいですね」と神蘭さんは話します。

市からのお知らせ

地域包括ケア講演会を開催

お互いさまの心でつなぐ地域のきずな ～枕崎で安心して暮らし続けるために～

住み慣れた枕崎で自分らしく、生きがいを持って暮らし続けたい。そのためにはどうしたらいいのか。そして何が必要なのか。「互助」をテーマに、見守りや支え合いなど地域のきずなについて考えます。

- 日時 2月25日(土) 午後3時～(受付＝2時30分～)
- 場所 市民会館大ホール
- 内容 基調講演(午後3時～)、行政報告(午後3時40分～)、パネル・ディスカッション(午後4時～)、質疑応答(午後4時40分～)
- 対象 枕崎市内在住の方、枕崎市内にお勤めの方
- 入場料 無料
- 問合せ 地域包括ケア推進課 TEL72-1111(内線328)